

待望の給食用生牛乳は

—四月から—県の方針も決る

—八給食センターから—

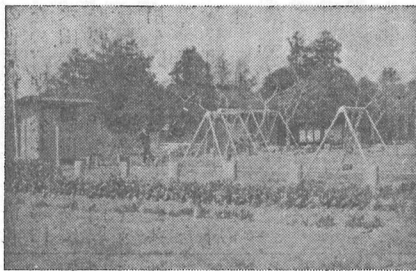
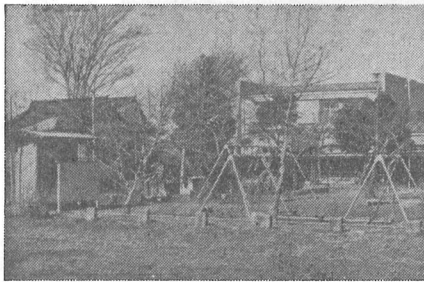
横芝町の学校給食牛乳は従来混合乳を使用していました。最近子供さんの声として「生の牛乳を」という希望があり、事実手付けずに残す子供さんもある様子です。このことについては運営委員会でも話題になり「出来れば生乳採用を考えて欲しい」という意見が多く栄養士達も研究を続けておりましたが栄養の点、特に蛋白質等は混合乳より劣り、子供さんの栄養基準を補うためには副食物で約五円の負担が増す見込みで約五円の前月号で御案内申上げました通り現状でも四月からの御負担額の増加予定もありましたのでセンター関係者は種々研究討議を重ねました。が「安くて、蛋白が勝れていても飲んでくれないことには致方がない」という結論に達したのです。折も折県の方から「今後学校給食は生牛乳を使用したい」という内示と希望の問合せがありましたので早速生牛乳に転換したい旨回答いたしました次第です。只今センターで御家庭から戴く給食費はどうしたならば子供さんのお腹に効果的に還元できるか、と隣接施設と購入単価の情報交換、生産地からの共同購入、原材料からの自家調理等種々方法を講じて来まし

た訳であります。以上の様な次第で四月からは或程度生牛乳転換による給食費の増額ということも予定されておりますがその額等につきましても県当局とも再度打合せを行ない運営委員会にも諮り詳細を改めて御知らせしたいと考えております。何れにしましても次の世代を担う大切な子供さんの健康と栄養確保のためによりよく御協力と御支援をお願いいたします。

十年一昔 (その十四)

—東町児童館界限—

横芝町第二保育所と聞かれると「児童館の隣です」と答える人が多くなりましたが近くのお年寄りの中には「あ稲荷様の向うですよ」と返事をされる方がまだあります。今から十年前、稲荷様の境内に遊園地が出来た頃もその境内は鬼ごっこ、隠れんぼ等子供達の大切な遊場でした。まだここには社務所を兼ねた様な集会所があって、役場の衛生行事の出張所とか区会の席や若衆連の祭りばやしのけ



い会場にもなった外、夏の盆踊りの会場にもなる等今と異なった意味で東町区民の方々の寄所となっていたのです。夏の夜の一時、喉自慢の若い娘の唄につれて、権三が西国ノ等と手拍子足並揃えて踊り楽しんでたわめきや、若衆の祭りばやし、の笛や鼓の音は栗山や鳥喰辺り迄も聞えたものでした。稲荷様の鳥居は児童館前の通りに面して現と同じ様に建っていました。が社殿は鳥居とほぼ直角に県道の方を向いて建っていました。その傍のいちょうの木からはギンナンが黄色い果肉を付けたまま落ちて近所の子供さんやおばあさん等が拾い集めて木の根元に埋め、果肉が自然に落ちるのを待って掘り返したりする風景もありました。いちょうの木は今でも立っています。がギンナン拾いの話を聞かないのは物質が豊富になるに従い、果物の異様な臭気が嫌われてきたのでしょうか。遊園地が出来てから間もなく集会所は取払われて児童館が建ち一時仮に保育所的な仕事も行なっておりましたが昨年から正式な保育所が誕生して横芝第二保育所となり近代式建造物が稲荷様を取囲んでしまいかの様に稲荷の社殿も鳥居に正面してコンクリート建で近代的に改築されました。しかし、元の社殿もそのすぐ後にやはり鳥居の方に向けて

残されており参拝の方が大いに向方にお詣りをするのも何となく自然さを感じるのには長年親しんで来た旧社殿に對する郷愁がそうさせるのかもしれません。

写着上は現在の東町児童館で此の辺りに集会所があったのです。大きな樺の下に黒い屋根は旧社殿その向うに少し見えている屋根が新社殿で

公民館だより

老いも若きも楽しく踊る

民踊教室はじまる

第二回成人学校から新設した民踊教室は、募集開始早々にして定員に達し、去る二月十一日から開講しましたが、この日を楽しく迎えていた受講者は定刻前にすでに会場に集りにぎやかなものでした。



講師には正派若柳流師範の若柳順助先生をお願いして、早速第一回目からお年寄りも若い人も一緒に「草津小唄」の練習に入りました。この受講者の中に紅一点にあらず黒一点？男性一人がまじって熱心に練習されているのに感激させられました。さすがに好きこそものの上手なりとか二時間草津小唄をマスターして、第二回目には「お伊勢詣り」の練習に入りましたが、この調子では閉講までには十曲位いマスター出来るでしょうとは、講師の先生のお言葉でした。なお、今回の民踊教室に受講できなかった方々は、次回にも開設する予定です。ので暫らくお待ち下さいますようお願いいたします。